

雪中キャベツによる地域の活性化

活動の経緯

小谷村は面積の89%を森林が占め、耕地は2%、冬季は2mを超す積雪により、農作物耕作の地理的条件が極めて厳しい状況である。こうした不利条件を付加価値に転嫁するべく、全国に先駆け昭和33年頃から雪中野菜の生産がスタート。一時期、除雪体制が脆弱等の理由により生産が途絶えたが、有志の「小谷村ならではの魅力ある地域野菜を届けたい」との思い・努力による復活を遂げ、H28より生産組合として活動を継続している。

活動の概要

雪中キャベツの生産及びブランド化による地域の活性化。



収穫ツアーの様子



収穫状況

活動の成果、主な実績等

・農林漁業、農村文化体験

単に野菜の販売だけでなく、生産者や小谷村観光連盟による収穫ツアーを実施。多い時で2mを超す積雪の中から雪中キャベツを収穫する体験メニューを提供。情報発信、取材によるメディア露出により認知度向上につながっている。

・高齢者の活躍

高齢の生産者にも農作業が無くなる降雪期に収穫できるメリットがあり、高齢者が音頭を取って積極的に活躍する等、生きがい・やりがいとなっている。

・学生・若者の活躍

組合に所属する生産組合の中には大学の拠点があり、学生が大学の研究と並行して雪中キャベツの畑づくりや地域作業に協力している。学生が進んで地域と協力することで、地域全体の活力が増している。また、雪中キャベツに魅力を感じた若者が生産を開始し、収穫ツアーの受入先になるなど活躍している。